

令和3年度 特別の教育課程の実施状況について

北海道：浜中町立散布小学校

1 趣旨

本校は令和元年度に北海道教育委員会から海洋教育パイオニアスクールプログラム推進校の指定を受け、3年間にわたり地域の海や水産業、地域の環境等に関する探究的な学習を進めている。

研究推進に当たり、教科の枠を超えた効果的な教育の展開が必要であることから、令和元年8月に学校や地域の特色を生かした特別な教育課程「散布学（海洋編）」の編成を文部科学省へ申請し、令和2年1月22日付けで教育課程特例校に指定されたところである。

本稿では、指定2年目（最終年）である令和3年度の特別の教育課程に基づく教育の実施状況について報告する。

2 実施状況の評価方法

- (1) 2021年度海洋教育パイオニアスクールプログラム実践記録集
- (2) 完了時自己評価書
- (3) 令和3年度学校評価（児童・生徒・保護者・教職員）
- (4) 地域大感謝祭における保護者アンケート
- (5) 2021年度公開・授業研究会参加者アンケート

3 令和3年度特別の教育課程「散布学（海洋編）」の概要

- (1) 特別の教育課程の名称・テーマ

「散布学（海洋編）」～散布を誇れる子どもの育成を目指して～

- (2) 目的

地域の海や水産資源と環境の結びつきについて理解するとともに、地域の発展に貢献することのできる人材を育成する。

- (3) 取組内容

ア 特別の教育課程の編成・実施・評価・改善

- (ア) 第1～2学年

前年度の活動を見直し、活動の質の向上、内容の深化を追究しながら、生活科、図画工作科等で海洋教育に関する地域学習を実施。小中9年間で取り組む海洋教育において育む資質・能力につながる学習活動を推進

- (イ) 第3～6学年

散布学（海洋編）、国語科、社会科、理科、図画工作科等で海洋教育に関する地域学習を実施し、関連する地域素材、地域人材を活用した取組を推進

イ 公開研究会・授業研究会の実施

- (イ) 令和4年1月27日（木）に公開・授業研究会を開催（参加者34名）

ウ 保護者・地域住民を対象とした報告会の開催

- (ア) 令和3年12月4日(土)に海洋教育の成果発信の場である「地域大感謝祭」を開催し、保護者を対象に取組を発表 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加対象を保護者に限定

エ 外部機関と連携した取組

- (ア) 令和3年5月7日(金)に散布漁業協同組合及び北海道釧路総合振興局釧路地区水産技術普及指導所と連携し、あさりの生態や散布地区のあさり漁に関する学習会を実施
- (イ) 令和3年5月13日(木)、14日(金)に散布漁業協同組合及びPTAと連携し「あさり掘り、稚貝撒き体験」を実施
- (ウ) 令和3年6月24日(木)に霧多布湿原センターと連携し、藻散布海岸の生き物探しや海岸清掃を実施
- (エ) 令和3年8月20日(金)にGrateful Farm松岡牧場と連携し、地域産業の見聞を広めるために酪農体験を実施
- (オ) 令和3年10月27日(水)にNPO法人シマフクロウ・エイドと連携し、「豊かな海を育てる森づくり」活動へ参加し、植樹活動を実施
- (カ) 令和3年11月17日(水) 浜中町役場水産課水産振興係と連携し、浜中町ウニ種苗センターの見学を実施
- (キ) 令和4年1月28日(金)に霧多布湿原センターと連携し、海と山のつながりについて学ぶために歩くスキーで冬の霧多布湿原散策を実施



第1・2学年「藻散布海岸散策」
(R3.6.24 藻散布海岸で海の生き物探し)



第1・2学年「海の子作品展」絵画
(マリンバンク主催)



第3・4学年「酪農業のことを知ろう！」
(R3.8.20 松岡牧場)



第3・4学年「漁業について調べよう！」
(R3.11.17 ウニ種苗センター)



第5・6学年「藻散布海岸学習」
(R3.6.24 藻散布海岸で環境学習)



第5・6学年「地球を守るために自分たちができること」
(R3.12.4 地域大感謝祭にて)

4 令和3年度の活動評価

(1) 自己評価

【妥当性】
今回のテーマと目標の設定は有効でしたか？
→ はい 赤潮被害等、漁業資源や水辺環境の社会問題が生活に直結する散布地区において、地域に目を向け、漁業を通して地域を学ぶ本校の取組は、保護者や地域住民の願いと合致しており大変有効であった。
学習内容の分量は適切でしたか？（無理のない目標・計画でしたか？）
→ はい 昨年度作成した年間カリキュラムに沿って学習を進めることができた。また、海洋教育と他教科を関連付けながら教育活動を進めることができた。
内容は対象児童・生徒のレベルに適切でしたか？
→ はい 児童の発達の段階に応じた学習活動を展開することができた。複式校である特性を生かし、2年間を通して学びを深めることができるカリキュラムを作成し、各教科等との関連をより深めながら学習活動に取り組むことができた。

【有効性】
内容は計画通りに実施されましたか？
→ はい 小・中学校9年間で身に付けさせたい力を明確にし、「体験→探究→発信」の学びのスタイルを確立した。発信先を他地区、他県に広げるなど、児童の主体性を大事にしながら実施することができた。
協力要請した外部機関との連絡体制や指導内容は良好/適切でしたか？
→ はい 散布漁業協同組合、釧路地区水産技術普及指導所、霧多布湿原センター等との連携や協力体制を構築することができ、良好かつ適切であった。
助成事業に対する地域や保護者からの理解は得られましたか？ 実施後に家庭や地域への知識や情報の広がりが見られますか？
→ はい 学校便りやホームページで取組を発信するとともに、令和3年12月4日（土）に開催した『地域大感謝祭』の保護者アンケートに「あさを扱っている水産会社としてもとても勉強になった」とコメントが寄せられるなど、地域にとっても有効な情報を広げることができた。

【効率性】

学習活動の実施時期は適切でしたか？

→ はい

「あさり掘り・稚貝撒き」「海岸清掃（海洋プラスチックの除去）」「植樹活動」「歩くスキー」等を季節や潮の干満を考慮し、行うことができた。

物資・資金・派遣講師（人員）の規模や質は適切でしたか？

→ はい

保護者や地域住民から物的・人的支援が得られたため、困ることはなかった。助成額も十分であった。

実施期間の設定は適切でしたか？（計画内容を設定期間内に終わることができましたか？）

→ はい

計画していた内容は、全て実施することができた。実施期間の設定は適切であった。

【持続性】

活動に必要なノウハウ・知見・技術等が教員間で共有されていますか？

→ はい

計画段階から複数の教員が関わったり、児童とともに体験したりすることを通して、活動に必要な知見等を教員間で共有することができた。

学習内容や成果物が適切に活用される（見込み）がありますか？

→ はい

今年度の活動や年間カリキュラムを実践記録集にまとめ、自校で活用するとともに、道内実践校、管内全小学校及び関係機関へ配付した。

学習した内容を継続・応用する仕組みは考慮されていますか？

→ はい

外部機関の人的・物的支援や協力体制、教員のスキルアップ等、3年間の指定が終了した後も学習内容を継続・応用する仕組みを構築することができた。

【信頼性】

担当教員は学習内容について十分な知識・技術を有していましたか？

→ はい

各種取組を教員間で分担して行うことにより、必要な知識・技術の共有を図ることができた。また、外部機関と連携を図り、学習計画を立てる中で、教員の知見が広がった。

実施に当たり、十分な体制が整えられましたか？（教員間連携、安全対策、チェック体制）

→ はい

教頭を中心に教職員間の連携・協力体制を整えることができた。また、保護者の協力により、野外活動時の安全体制を整えることができた。

実施内容について外部公表・発信・共有していますか？

→ はい

公開研究会の実施のほか、報道各社と連携を密にし、本校の取組を広く地域に発信することができた。また、ホームページを活用し、本校の取組を発信することができた。

(2) 児童・生徒・保護者・教職員による評価 (令和3年度学校評価 7月・12月実施)

(前回よりも0.2pt以上上昇 前回よりも0.2pt以上下降 最高点4.0)

項目	No.	設 問	実施日	児童・生徒			保護者			教職員		
				小	中	平均	小	中	平均	小	中	平均
学校教育目標について	1	児童・生徒は、思いやりの心をもって友達と接している	R3.12月	3.7	3.6	3.7	3.3	3.3	3.3	3.7	3.7	3.7
			R3.7月	3.7	3.7	3.7	3.6	3.3	3.4	3.7	3.7	3.7
			R2.12月	3.8	3.3	3.6	3.5	3.2	3.4	3.2	3.8	3.6
	2	児童・生徒は、家庭学習や習い事、興味のあることなどを進んで学習している	R3.12月	3.3	3.5	3.4	3.2	2.9	3.1	3.0	2.8	2.9
			R3.7月	3.6	3.5	3.6	3.5	2.9	3.2	3.2	2.8	3.0
R2.12月			3.3	3.2	3.3	3.2	3.1	3.2	3.0	3.3	3.2	
3	児童・生徒は、体を鍛えたり毎日決まった時間に起きるなど、健康的な生活をしようとしている	R3.12月	3.3	2.7	3.1	3.1	2.6	2.9	2.8	2.8	2.8	
		R3.7月	3.4	2.9	3.2	3.0	2.7	2.9	3.3	2.5	2.9	
		R2.12月	3.2	2.8	3.0	3.1	2.7	3.0	3.2	3.1	3.1	
4	児童・生徒は、自分で決めたことを最後までやりぬこうとしている	R3.12月	3.7	3.4	3.6	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
		R3.7月	3.8	3.4	3.7	3.1	2.9	3.1	3.2	3.0	3.1	
		R2.12月	3.5	3.3	3.4	3.0	3.0	3.0	3.2	3.6	3.4	
5	児童・生徒は、整理整頓に気を配り、身のまわりを美しくしようとしている	R3.12月	3.3	3.4	3.4	2.6	2.7	2.6	2.8	3.2	3.0	
		R3.7月	3.3	3.1	3.2	2.6	2.6	2.6	2.8	2.7	2.8	
		R2.12月	3.4	3.4	3.4	2.4	2.6	2.5	2.8	3.3	3.1	
指導について	6	学校は、わかりやすい授業をしていると思う	R3.12月	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.0	3.0	3.0
			R3.7月	3.9	4.0	3.9	3.7	3.3	3.6	3.3	3.5	3.4
			R2.12月	4.0	3.8	3.9	3.7	3.5	3.6	3.2	3.7	3.5
	7	学校は、子ども一人ひとりが自立を目指して成長できる教育活動を行っている <small>(児童生徒～先生方は時には厳しく、時には優しく自分たちに勉強や運動などを教えてくれている)</small>	R3.12月	4.0	3.9	4.0	3.6	3.6	3.6	2.8	3.2	3.0
			R3.7月	3.9	4.0	3.9	3.7	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5
R2.12月			3.9	3.8	3.9	3.8	3.5	3.7	3.2	3.4	3.4	
8	学校は、子ども達の心と体が健康で安全な生活ができるように努めている	R3.12月	3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7	3.5	3.8	3.7	
		R3.7月	3.8	4.0	3.9	3.8	3.6	3.7	3.5	3.5	3.5	
		R2.12月	3.9	3.9	3.9	3.8	3.6	3.7	3.4	3.8	3.6	
地域から信頼される学校	9	学校は、授業参観やお便り、家庭訪問、電話、ホームページなど、家庭や地域との連携に努めている	R3.12月				3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8
			R3.7月				3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7
			R2.12月				3.7	3.8	3.7	3.4	3.9	3.7
10	学校は、厳しさと優しさを持ち、子ども達から信頼されるよう努めている	R3.12月				3.6	3.4	3.5	3.3	3.3	3.3	
		R3.7月				3.9	3.4	3.7	3.5	3.3	3.4	
		R2.12月				3.6	3.4	3.5	3.4	3.8	3.6	

～考 察～

- ・設問2「児童・生徒は家庭学習や習い事、興味のあることなどを進んで学習している」の児童の保護者の回答は、7月に上昇後、12月に下降が見られた。地域の資源を生かしながら学校と家庭の学びの連続性を意識していきたい。
- ・設問6・7・8「指導」については、児童の保護者はどの項目も高い傾向にある。海洋教育を軸とした地域学習の推進の成果であると考えている。
- ・設問9・10「地域からの信頼」については、コロナ禍にあり学校と地域・家庭との関わりに制限がある中で0.2～0.3ptの変動があるものの、高い数値で維持されている。今後も感染状況を踏まえながら家庭・地域から信頼される学校づくりを目指していく。

5 各活動のアンケート結果

(1) 地域大感謝祭

ア 活動概要

(ア) 目的

地域の方々に感謝の気持ちを伝えることを目的とし、「地域を学び、地域を愛し、地域をよりよくする方策を考える姿」や「生き生きと学び発表する姿」を見せることが「感謝」になると追考し、主に海洋教育で学んだこと等を地域に発信する場とした。



(イ) 期日

令和3年12月4日（土）9：20～11：30

(ウ) 活動内容

a 小学生の取組

1、2年生は各教室で模擬店「作ってあそぼう昔あそびランド」「おまつりランド」を出店した。3・4年生は、「浜中の魅力を伝えよう（漁業と酪農業について）」で手書きポスターとICT機器を用いた発表を行った。5・6年生は、「地球を守るために自分たちができること（海洋教育成果交流）」と題し、自分たちのアイデアを町に提案する活動に向けて保護者に意見をもらった。



b 中学生の取組

2班に分かれ、あさりを使ったクラフト体験（ハーバリウム、ランプシェード作り）を行った。計画から当日の運営まで、生徒が自主的に活動した。



イ 保護者アンケート

No.	感想
1	・子供達が楽しそうにしている、帰ってからも楽しかったとすごくうれしそうだった。
2	・小1～中3まで子供達みんなが楽しんで行っていた。 ・アサリのランプシェードやハーバリウム作りは小1でも作る事ができてとても楽しそうだった。
3	・子供の成長がみれた。 ・ハーバリウムがとてもかわいくて楽しかったです。いつも中学生のクラスを毎年楽しみにしています。
4	・全部は回れませんでした、当日までの先生方や子供達の準備の成果が伝わりました。とても楽しい時間を過ごせました。
5	・中学生の男の子達が照れながらも一生懸命説明してくれたのが可愛かったです。 ・小学校低学年の子供達もしっかりした説明の仕方でした。 ・高学年の子供達はさすがですね！私も勉強になるような全国のアサリの漁獲量と北海道を比べてたりして、アサリを扱っている水産会社としてもとても勉強になりました。 ・コロナ禍で地域の皆さんを呼べないのは残念ですね。2年前の中学生と一緒に作ったタラフライバーガー？が楽しかったので、コロナが落ち着いたら調理的なこともいいかなと思います。
6	・小学校、中学校と全部楽しかったです。 ・小学生のみんなもすごく楽しそうでした。もちろん私も楽しかったし、笑ってばかりいました！！ ・中学生のワークショップみたいのもすごくよかった。アサリでランプなんてよく考えましたね。Good！！ ・34年、56年の発表は全員聞けるわけじゃないので、やめた方がいいと思います。わが子の発表だけしか見られないので、参観日や違う行事を新たに設けた方がいいと思いました。 ・来年こそ食べ物ができればいいですね！！

7	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年は、輪投げやストラックアウトなど低学年らしく工夫して出来ていたと思います。最後のストレス発散ボードが良かったです！！ ・高学年は海洋教育で学んだことを上手にまとめて詳しく発表していて分かりやすかったです。 ・中学生のハーバリウムとランプも大人でも楽しく作ることができました。 ・コロナ禍での感謝祭で今年も色々制限がある中でたくさん工夫して、考えて、出来ていたと思います。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ工夫し皆が、協力していて良かったです！ ・子供たちが生き生き活動していて良かったです！ ・体験型で記念に残る物は、楽しみにしています、次回も期待します！
9	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが家族を楽しませようと努力しているところがよかったです。 ・3時間の中では見る物が少ないかなと。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、パラシュート作りやゲームをやったり発表があったり、一つ一つが興味をもって参加できました。保育所の弟を連れて行ったけど、一緒に楽しむことができてよかったです。 ・中学校では、普段家でやれない工作ができ、インテリアとしてもずーっと使える物を作れてよかったし、かわいいのに簡単に出来てとても満足できた。 ・低学年の子もわかりやすく説明してくれたり、中学生は呼び込みをしていたり、一生懸命さが伝わりました。とても楽しかったです。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育での経験や学び、修学旅行で交流できたことを発表できたこと。皆で提案して再考して、自然環境の活動が実りある学びになりそうだと感じた。沢山の人の前で堂々と話す姿は素晴らしかった。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・発表で子供達の考えを聞いてよかった。とても聞きやすかったです。 ・ハーバリウムを作る時、ていねいに教えてくれて楽しかったです。 ・発表の時、緊張していたけど、これからもっと経験していくともっと成長できると思いました。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のパラシュートとってもよかった。ちゃんと「とぶんだ〜」っと思いました。 ・2年生の的当て、またやりたい。 ・3、4年生の発表、みんなステキだった。 ・中学生のアサリのランプ、あさがつけづらかった。 ・中学生のハーバリウム、とっても楽しかった。沢山作りたかった。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・「参観日の時より大きいテレビで発表するからね！間に合ったよ」といわれていたとおりの大型モニターで、一番後ろでもはっきりと見る事ができて楽しめました！ ・教室からホールへの会場変更で、周りの音が気になる場面もありましたが、それに負けずに声を張って発表する姿に成長を感じました。(ホールの仕切りは在学中にも見たことがなかったですが、すごい防音効果でしたね！ありがとうございました。) ・他学年の教室でも色々な体験をさせてもらい親子で楽しみました。早速家でも使わせてもらいます。 ・5、6年生のアンケート用紙の4段階評価は、親や他生徒がアンケートを書きやすいと思いました！ ・遊びや物作りコーナーに人が殺到してしまうと、一生懸命発表しているところにお客さんがいなくなり”もったいない！！”と思いましたが、どの学年もすばらしかったです！！！！
15	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が発表してもホール外で雑談している人がいて子供の声が聞きづらかった。 ・自分の子供以外でも是非見るべきだと思う。 ・素晴らしい発表で学校外や色んな所で発表できる場があるといいなと思います。 ・3、4年生の酪農の勉強とか色々な職種の体験ができる機会があればいいなと思いました。

(2) 2021 年度「海洋教育パイオニアスクールプログラム」公開・授業研究会

ア 概要

(ア) 目的

最終年度の研究の成果を広めるとともに、参加者からのフィードバックによって今後の方向性の修正を図ることを目的に、公開・授業研究会を開催した。

テーマを「散布の海からの発信～散布を誇れる子供の育成を目指して～」と定め、授業公開の他に本校の研究説明や研究協議を行った。



(イ) 日時

令和4年1月27日（木）13：3～16：00

(ウ) 時程

13:15	13:30	13:55	14:40	14:50	15:50	16:00
受付	説明 本校の海洋教育の 取組について	授業公開 小5・6年生 散布学(海洋編) 「散布の海の豊かさを守ろう」	休憩	研究協議 子供こ深い学びを促す 海洋教育の実践について	閉会	

(エ) 参加者 34名

イ 参加者アンケート

(ア) 説明（本校の海洋教育の取組について）について

【よかった16 ややよかった3 あまりよくなかった0 まったくよくなかった0 無回答1】

- 学校が小さいことを全く思わせない非常に充実したカリキュラムだと思います。産・学・官・民連携システムもしっかりしていると感じます。本カリキュラムはインプットだけでなく発信までの一貫した流れが重視されており、意味のある学びにつながっていると感じます。プロジェクトが終わっても将来にわたって末永く続けてもらいたいと思いました。一点気になったのは、自然環境の保全の必要性とその根拠を児童がどれほど理解しているのかということです。将来コンブが減るかもしれないこと、人口が減り、町が寂しくなることについてもどのようにとらえているか。
- 取組についてよく理解することができた。かなり先進的な取組事例であると感じた。
- 地域の特徴を生かした活動で、子供たちには有意義だったと思います。教師たちも環境やSDGsなどについて深く考えるきっかけとなったと思います。地域の方たちも注目してくれていたようです。自分も少しですが関わって学びになりました。
- 3年間の取組の流れが整理されており、大変分かりやすかったです。
- これまでの散布小学校の積み上げてきたことが分かりやすく聞くことができた。発達段階に応じて組まれているプログラムは子供たちの成長につながっていると感じた。
- 取組の内容や地域の実態がとても分かりやすかったです。
- 児童が他校では味わうことのできない様々な体験をすることができていて素晴らしいと思いました。
- 各学年の海洋教育の取組など分かりやすかったです。6年間の取組が中学校にどうつながっていくのか気になりました。
- 海洋教育について、今までよく知りませんでした。今回参加させていただき、素晴らしい取組だと感じました。地域の方の協力もよく分かりました。
- 短時間で海洋教育の背景や根拠などの根本的なところから、本校の具体的取組までまとめていただき、分かりやすかったです。
- 自分たち（散布）の取組を改めておさえておくいい機会となった。
- 参加者に授業を観察する視点、ポイントを最後に提示等ができれば、より授業とのつながりがスムーズと感じました。

(イ) 授業公開 [小5・6年散布学 (海洋編)「散布の海の豊かさを守ろう」] について

【よかった11 ややよかった8 あまりよくなかった0 まったくよくなかった0 無回答1】

- 漁協の方が「大人として考えないといけない」と発言してくれただけでも本時の価値があったように思います。
- 難しいテーマを扱っていると思いますが、児童がしっかりとこれまでの体験や学びを整理できており「相手に伝えるには何をしたらよいか」について考えるというゴールもきちんと認識できていたと感じました。また、発言の中に含まれる用語の使い方もしっかりしており、知識の定着が伺えます。伝える時に根拠が必要だということについては、児童はよく理解できていたと思います。ただ、「なぜそれを伝えたいのか」というところに自分なりの理由や根拠が表現できていなかったと思います。指導案にはそれが明記されていたので、うまく引き出せるとよかったかなと思いました。
- 子供たちが皆積極的に授業に参加しているのが印象的だった。授業内容についても、みんなが理解した上で進めているのが良かった。
- 担任の熱意と児童たちの頑張りが素晴らしかったです。海洋教育の良さと学級経営の成果を見ることができました。3年間の集大成と呼べる授業だったと思います。本当に小学校の先生で研究を重ねたことが伝わってきました。
- 子供たちが活発に意見を言い合う姿は素晴らしかったです。他教科 (特に国語) とのつながりが感じられた反面、やや国語っぽい授業になってしまった感がありました。地域の事を主体的に考えようとする姿が随所に見られ、学びの連続性を感じました。
- 子供たちが「地域をよりよくするために」という視点に立ち、たくさんのアイデアを出し合っているのがすばらしかった。
- 学級の雰囲気が非常に良いと感じました。また「子供の目指す姿」の達成に向けて適切な授業内容でした。
- 子供たちが主体的に取り組んでいる姿がとても素晴らしかったです。国語の学習を関連付けた発言があり、普段から教科間の関連を図っているのだなと思いました。
- 子供たちの意欲的で積極的な姿、傾聴する姿、そして地域を見つめる姿がすばらしく印象的だった。
- もっと子供の活動あふれる授業の可能性が見えた。改めて課題設定と教師の関わり (説明) について反省し、次につなげてほしいと思う。
- 児童たちが自分の住んでいる地域についてかなり高いレベルで話し合う姿がとても印象的でした。
- 授業の雰囲気はとてもよかったと思うのですが、課題の内容が児童の思考を深めるものだったのかを吟味する必要があると思いました。
- 途中、音が消えてしまうことがありましたが、固定カメラだけではなく、動くカメラで児童の様子や掲示が見られてよかったです。
- 協議の視点を授業が始まる前に知ることができたらいいなと思いました。
- Zoomでの授業公開はやはり伝わりづらい場面がありましたが、子供たちの生き生きとした学習の雰囲気は想像できました。
- 子供たち同士の意見交流をもっと見たかったです。

(ウ) 研究協議 (子どもに深い学びを促す海洋教育の実践の在り方) について

【よかった13 ややよかった6 あまりよくなかった1 まったくよくなかった0 無回答0】

- 私も趣味が船釣りなので、海の汚染はとても心配ですし、沖に出てもゴミがひどいです。(悪いのは大人かな?) きれいな海を大切にしてくれる大人に成長してもらいたいです。(きっとそうなります)
- Zoom対応の中、できる限りのことができましたと思います。
- オンラインでしたが、要点を絞った議論ができたので有意義でした。本カリキュラムの学校や地域社会における位置付けはかなりいいところまで明確になりつつあると思いますが、協議であったように、高校までの一貫性や変容する社会と照らし合わせることは、本カリキュラムを継続する上で根幹をなすと思います。そこがしっかりしてくれば自ずと地域に必要とされ、長くよりよく続けていけるのではと考えます。応援しています。
- 様々な業種の方々とざっくばらんな意見交換ができてよかったです。授業に関する意見もたくさん出たので、今後の授業の参考になればよいと思う。

- 熱心なグループ活動ができました。KJ法は意見を言いやすく盛り上がります。話し合ううちに、思いもよらない視点や疑問などが出てきて、楽しく話し合えました。地域愛というものについて改めて考えることができました。
- 地域学習について、改めて深く考えさせられました。大変勉強になりましたが、欲を言えばもっと時間がほしいと思いました。
- 根拠をこれまでの学習（理科やアンケートなど）から示していることができていたり、国語の既習事項から説得力を増すために根拠が必要と発言していたりして、他教科との横断的な指導の成果だと感じました。私の学校では理由と根拠の違いが明確ではなかった子もいたので、継続することの大切さを学ばせていただきました。
- 相手をよく知っていると、問題になりそうなことが予想出来て対処することができるが、大規模になると運営が難しくなると思った。
- 学校関係者だけではなく、地域・専門家の方々が地域教育の価値について様々な視点で考え、それを共有することができ、今後の参考となる意見をお聞きすることができた。
- 子供たち自身が何をするのか、どんな姿になっているのかがより明確になっていると良いと思いました。
- 地域の特色を生かした学習、カリキュラム・マネジメントなど、協議を通して学ぶことができました。
- Zoomなので難しいですが、他校の先生とも交流できればより深い話し合いができたのでは・・・と思いました。
- 柱が2つありましたが、両方満足の話し合いにはなりません。柱をどちらか1つにし、それについて時間をかけてもよかったかもしれません。河内さんの話（①グループの話）が「なるほど～」と思われました。教員以外の人の見方はとても勉強になりますね。

(エ) その他（感じたことや気付いたこと等）

- Zoomでの実施が今後もできるのであれば、浜中町の学習関係者だけでなく、町外の方も見られるようにしてもよいのではないかと？
- 地域学の取組として、浜中町の各学校で行われている取組は素晴らしいので、小中高の一貫した浜中学として、教育委員会さんが整備してくれるとより良くなると思う。
- 散布小中の海洋教育はとても素晴らしいので、継続して行ってほしい。
- 公開研の運営が急遽Zoom開催となり、大変な中、最善が尽くせたのではないかと思います。授業者含め運営関係者の皆様お疲れ様でした。
- 本校の3年間の海洋教育の足跡を改めて実感しました。今後はこの取組をどう系統立てていくか整理が必要ですが、散布らしい地域に根差す教育課程を創り出すことができたように思います。
- 次年度以降の海洋教育をどのような形で受け継いでいくか、小中9年間の総合的な学習の時間を（全体計画を含め）見直して、よりよいものにしたいです。担当の先生方お疲れさまでした。
- 小学校での取組が中学校でもしっかり生かされるよう、総合的な学習の時間、文化祭や地域大感謝祭の在り方について、しっかり計画を立てなければならないと思いました。
- 散布小学校の海洋教育の取組、改めて素晴らしいと思いました。貴重な機会を頂きありがとうございました。
- 町への提案は個人で行うのか、ある程度の「テーマ別」（ex：環境、生命を守る）によって行うのか気になりました。
- 子供たちが根拠は一つより複数あるほうがより説得力が増すことに気付けるといいなと思いました。
- 散布小の児童の様子、実際に現場で見たかったです。「散布学」とても素晴らしい学習だと思いました。ありがとうございました。
- ネットの通信状況がよければ所属をバラバラにしたグループをつくらせて交流したら楽しそうだと思う。（交流の中で一人一人の学びがより大きくなる）

6 成果と課題について

(1) 成果

地域の海や水産業、地域の環境などについての探究活動を通して、地域の海と水産資源と環境の結びつきについて理解を深める取り組みを計画・実施できた。また、家庭や地域と連携を図りながら、体系的・継続的に実施できるカリキュラムの作成ができた。これらの教育活動を通して、児童が改めて地域の良さを実感したり、地域の問題に気付いたりしながら、地域を良くしていきたいという思いを育むことができた。

ア 1・2年生

水辺の生き物とふれ合うことで、地域の自然の豊かさに気付くことができた。また、自然の栄養分が海に流れ込むことで、魚、昆布、ウニなどの豊かな海産資源の育成に繋がり、自分たちの生活を支えていることを学ぶことができた。藻散布海岸での活動は、海の環境や環境を守るために必要なことを考えるきっかけとなった。

イ 3・4年生

藻散布海岸での学びを土台として、海の自然や資源、地域の産業について自ら課題意識をもち、進んで調べていくことができた。また、活動の中で「地域の産業に携わる人々の思い」にも触れることができ、より一層地域に誇りをもち、地域の発展に貢献したいという意識を高めるきっかけとなった。シマフクロウ・エイドとの植樹活動では、植樹が森に与える影響や、山と海のつながりについて学び、自然環境への理解を深める姿が見られた。

ウ 5・6年生

藻散布海岸の清掃活動、あさり島活動、シマフクロウ・エイドとの植樹活動、海洋教育実践交流会、海の専門家の講話、沖縄の学校との交流、地域大感謝祭など、様々な活動を通して、児童が地域の発展に貢献しようとする姿に迫ることができた。海の専門家の講話では「2090年には散布の昆布がなくなる」という予測を知り、自分たちの地域の環境に対する意識が高まった。沖縄の学校との交流によって、自分たちの住む地域と共通の課題があることに気づき、今後の活動につなげたいという意欲が一層高まった。

エ あさり島活動

活動を通して地域資源の大切さを再確認するとともに、地域の海洋と漁業について学び、自分たちの暮らす地域の良さを再認識することができた。また、中学2年生が小学校5・6年生教室へ出向き、あさり掘りや外敵駆除のコツを教えるなど、小中の垣根を越えて活動に取り組むことができた。外敵駆除や稚貝撒きの活動を通して、「獲る漁業から育てる漁業」への意識を高める学習となった。

オ NPOシマフクロウ・エイドとの植樹活動

散布漁業協同組合と連携を図りながら道有林に計80本の苗木を植え、山と海のつながりを学ぶことができた。植樹後は学校に戻り、森に植える苗木を育てるために、ポットに種植えを行った。豊かな海をつくるためには、森づくりが重要であることを全校児童で学ぶ機会となった。

カ 地域大感謝祭

1・2年生は生活科の学習の成果を発揮する場となり、3～6年生はこれまでの海洋教育の学びを発表する場となった。発表後は参加者の反応を受け止め、自分たちの次の活動へ生かそうとする姿が見られた。中学生は地元の物を使ったアイデアや、親子で楽しめる時間、作ったものを思い出の品にできる取組を行い、参加者に好評であった。地域大感謝祭は児童生徒の発信力を高めることができる行事となっている。

(2) 課題

海と人の共生を実現するためには、教科等を横断した幅広い視点から考えることが必要であるため、各学年の活動と教科等の関連を図りながら内容を精査していかなければならない。特に、講師を招いた講話や体験活動の実施時期によって、関連付けられる教科等や内容が変わるため、ねらいを明確にした上で、事前の綿密な計画が必要となる。

また、2年1巡で実施できるカリキュラムの作成、あさり島活動やそれ以外の活動において、中学校とどのように連携を図るかが課題として挙げられる。

ア 1・2年生

これまでの取組をもとに生活科（なつとあそぼう）などとの関連を図り、自分と身近な動物や植物などの自然とかかわりに関心をもたせたり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫する活動を取り入れることで、内容をより充実させていきたい。

イ 3・4年生

児童の課題意識と探究活動につながりが生まれるようなカリキュラムの作成が必要である。また、国語科（リーフレット、ポスター）、社会科（土地の利用）、理科（水のゆくえ）など、これまでの活動と関連を図ることができる教科を整理していきたい。

ウ 5・6年生

3・4年生と同様に、国語科（意見文を書こう、提案文を書こう）、社会科（国土の自然）、理科（自然とともに生きる）などとの関連を図り、教科等横断的な視点を大切にしながら内容の見直しを図っていく必要がある。また、海の専門家の講話や沖縄の学校との交流の実施時期によって、児童の課題意識や目指すゴールへのアプローチの仕方が変わってくるため、ねらいを明確にした上で年間カリキュラムに位置付ける必要がある。どちらの活動も児童の深い学びを促す活動であるため、今後も継続していきたい。

エ あさり島活動

小・中学校の連携のあり方が課題である。元々中学校では、3年1巡であさりの生態を学習していたが、活動に小学生が参加することになったため、いつ、何を、どの学年で学ぶのかを精査し、小学5年生から中学3年生までの学びの系統性を意識したカリキュラム作成が必要である。

オ NPO シマフクロウ・エイドとの植樹活動

「木を植えたら植樹は終わり」という認識ではなく、植樹後の苗木の経過観察など、次年度以降も山と海のつながりを学ぶ活動として継続させていきたい。また、実施時期によって関連付けられる教科等が異なるため、何を目的とするかを明確にし、活動を進めていく必要がある。

カ 地域大感謝祭

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度も保護者のみを招いた開催となった。本来の活動が再開された時には、児童生徒の学びを発信する機会とするほか、地域素材を生かした料理の開発など、地域の新しい魅力を発信していくことができるよう、散布漁業協同組合等と連携を図っていききたい。

7 展望

今年度で「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の研究指定が終了するが、今後は、これまでの活動を整理・精選し、主に総合的な学習の時間と関連付けながら全体計画を練り直していく。また、小学校での学びを中学校でさらに深化し、地域の海や水産業、自然環境等についての理解を深め、海を通じた世界の人々との結び付きや、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童生徒を育成していきたいと考える。そのために、各学年の到達目標を明らかにするなど、小中9年間の学びの系統性を意識しながら、全職員の共通認識のもと本校ならではの海洋教育を推進していきたい。